



# 武蔵野発\*レジ袋 60%削減をめざして!

東京都武蔵野市

白石ケイ子



プチエコ抽選会 買い物をしてレジ袋を断った方に抽選券を1枚。抽選で各スーパーが提供してくれた買い物券やエコグッズ、市から提供した花の種などが当たった。

白石さんは、長年「クリーンむさしの推進する会」(東京・武蔵野市)で活動し、「マイバッグチーム」のリーダーとして丸10年間、精力的な取り組みを行ってきました。1年前からは市のレジ袋削減会議にも委員として参加、推進の旗振りをしています。吉祥寺の繁華街を抱える武蔵野市での取り組みは大変参考になります。

2008年6月、市は事業者懇談会を開催して「レジ袋の有料化は可能である」という感触を得ました。

そして2009年1月、学識経験者・市民・事業者・行政からなる「レジ袋削減会議」を設置しました。

私たちは市内の幅広い店舗形態の店舗が参加してもらえるような、有料化を含めたいろいろな手法を検討し、市全体で60%削減をめざすことにしました。

ところが9月から行う実証実験にむけて、2回目の事業者懇談会を開いたところ、かつてない不況の影響

で、1年前の懇談会とはうってかわり、事業者の反応は取りつく島のないものとなっていました。

一方で、地元の2商店会は地域振興につなげた形で協力してくれました。また、ほとんどが貸店舗の吉祥寺には、職員と市民でポスターや「袋いりますか?」カード等グッズをそろえて商店を回りました。また、市域全体に「マイバッグからはじめるプチエコキャンペーン」の華やかなフラッグがはためきました。キャッシュバック実験には7店舗が協力してくれ、「せめて抽選会を」と申し出てくれた3スーパー、「店頭キャンペーンなら」と7スーパーが参加してくれました。抽選会やキャンペーンには多くの市民が駆けつけて盛り上がりました。併せて大学生の応援を得てアンケート調査も行いました。

1円キャッシュバック実験結果は正確なデータが出たのは1店でしたが、レジ袋辞退率27%が60%に上がりました。また、若者向け雑貨チェーン店2ヶ所で声かけだけの実験をしたところ、24%が43%に、20%が30%に上がったという報告を受けました。抽選会でも効果は顕著で、商店会の意識も変わりつつあり、今回の実験は大きな意味があったと思います。

レジ袋削減の目的は、レジ袋を断ることで市民がライフスタイルそのものを変えていくこと。三者協働の緒についたところで、どんな削減協定にしていくか、それをより多くの業態にどう広げて行くかが大きな課題だと思っています。



プチエコキャンペーンのポスター